



## 白神への道・白神からの流れ

### — 目屋地域の歴史的考察 —

青森県文化財審議会 委員 佐藤 仁

『白神』という地名は、いつころから使われていたのでしょうか。慶安年中（1648～52）の『御郡中ごくんなちゅう絵図』には「白神ヶ嶽」の山名があるほか、海岸線に「白神崎」「白神川」などの文字があります。絵図作成のとき古老の話を聞いていると思います。この絵図より先に作られた正保（1644～1648）の国絵図でも同様な地名がみられます。したがって、「白神」の呼称は中世以来の地名と考えられます。

西津軽郡岩崎村大間越には「白神平」「白神浜」という小字名があるほか、「白神川」の名は今も残っています。川口の北側には五能線の白神岳登山口駅があり、「白神」の呼称は津軽のうち「西浜」に縁が深いのです。

いっぽう、山地の北側に広がる津軽平野の人びとは、



『御郡中絵図』の白神嶽（弘前市立図書館蔵）

白神山地の恩恵を岩木川の流れを通して受けてきました。岩木川の上流には「目屋」の盆地と渓谷が続くのです。

目屋盆地の入口ー岩木川が大きく蛇行する地点は「阿弥陀ヶ淵」と呼ばれており、急流が削った断崖を背景にして板碑が12本ほど残っています。（弘前市指定有形文化財）。おそらく国吉地域を支配した工藤右衛門尉貞祐らが造立した供養塔と思われます。碑面には1316年から1329年に及ぶ正和・文保・元応・嘉暦などの年号や、大日如来・阿弥陀三尊を示す種子（梵字）が刻まれており、鎌倉時代末期の信仰の様子を物語ってくれます。



国吉の板碑

の様子を物語ってくれます。

目屋地方の支配者はその後工藤貞行に変わり、やがて南部氏の手に移ります。

さらに永享4年

（1432）には「目谷川・田代二ヶ村」が天台寺（岩手県）造営の費用として、同寺に寄進されました。「目谷川」は国吉の小字名「目屋川」が該当するものと思われます。

天文15年（1546）に作られたといわれる『津軽郡中名字』は、「目屋ノ沢、望石、大秋、砂瀬、村市」などの地名をあげています。「目屋ノ沢」は前述の「目谷川」かもしれません。往時は岩木山を水源とする蔵助沢川を岩木川と呼び、現在の岩木川上流部は「目屋川」「村市川」といいました。岩木山から流れてくるからこそ岩木川と呼べたのです。これらの土地にはそれぞれ館跡や寺跡があり、中世には重要な地点だったと思われます。

16世紀の後半、大浦（津軽）為信は、津軽統一の事業を展開しました。そこには為信と対立する勢力が生まれました。特に目屋地方の反対勢力は強く、平定には時間を必要としたことを『永禄日記』は記しています。

こうして江戸時代が訪れました。しかし、平穏な毎日が続いたわけではありません。元和・元禄・宝暦・天明・天保の時代には大飢饉があり人びとは苦しみました。道端には餓死者の供養塔がひっそりとたたずんでいます。中畑の正休庵には宝暦12年(1762)と寛政8年(1796)の



桜庭の旧道に残る天明の大飢饉供養塔

石碑あります。前者は宝暦の大飢饉、後者は天明の大飢饉餓死者の13回忌の供養塔です。

調査の際、田代から村市方面の村々では、餓死供養塔を拜むことができませんでした。集落が小さく石碑を建立する経済力がなかったのでしょうか。日ごろ白神山地の植物を採り動物を捕って生活し、凶作を切り抜ける策を持っていたという説もあります。

江戸時代の村人の中には、山から木材を切り出して川筋におろし、駒越(弘前市)の土場に流す作業をする人の姿もありました。時代によっては尾太鉾山で働く人もいたと思



尾太鉾山の絵図

います。村市の鹿島神社には尾太鉾山の関係者が奉納した石灯籠が残っています。大秋川の水を田代に落



尾太鉾山の関係者が寄進した石灯籠 (右から2本目と3本目) - 鹿島神社 -

とす穴堰の開削は水田の拡張を推測させます。正月11日には「乳穂ヶ滝」に役人が来て滝の凍結の状態を調べました。氷柱が太くなるのは寒さが厳しいからで、稲藁の中にいる害虫が死に豊作になると考えたのです。凍結の状況は絵とともに藩主に言上されました。江戸まで飛脚が走る年もありました。同様なこ



絵図に残る穴堰 - 大秋川の水を田代に落とした -

とは十三湖の氷が融けた時も行われています。十三湊に舟が入り米の移送が可能になることは藩にとって重要なことでした。岩木川の上流と川口は弘前藩の財政と深いかわりがあったのです。

乳穂ヶ滝調査の役人のほか目屋にきた人をあげてみましょう。雪の暗門を訪れた白井秀雄(菅江真澄)、川原平に蟄居を命ぜられた藩の要人乳井貢、領土巡見の旅をした藩主津軽寧親らの名が頭に浮かびます。逆に凶作の年には古里を捨てる人も歩いたのです。ちなみに、弘前への道は江戸時代の半ばまで、国吉の「ネコジャ」の坂から高館の北を通り賀田を経由していました。江戸時代も後期になると今の県道に似た道筋、杭止坂を通るようになりました。大浦城中心の道路が弘前へ直行するようになったのです。この道はさらに長い歳月を経て改良され、白神山地から西海岸まで延長されました。



乳井貢の碑

昭和の初期バスが田代まで開通し、弘前新聞社の「津軽十景」の投票で「瑪耶溪」が第一位になりました。観光開発の事業が本格化したのです。戦後目屋ダムが完成しますが、観光面は成功したとはいえません。そして平成5年、白神山地は世界遺産に登録され白神ブームがやってきました。私達は白神山地の与えてくれた恩恵を忘れず、その環境を大切に保存しなければならぬと思います。また目屋ダム、津軽ダムの建設で姿を消した砂子瀬や川原平、過疎と合理化で移転を余儀なくされた山峡の高森、平沢などの集落の生活遺産とその記録を後世に伝えたいと考えるのです。

昭和の初期バスが田代まで開通し、弘前新聞社の「津軽十景」の投票で「瑪耶溪」が第一位になりました。観光開発の事業が本格化したのです。戦後目屋ダムが完成しますが、観光面は成功したとはいえません。そして平成5年、白神山地は世界遺産に登録され白神ブームがやってきました。私達は白神山地の与えてくれた恩恵を忘れず、その環境を大切に保存しなければならぬと思います。また目屋ダム、津軽ダムの建設で姿を消した砂子瀬や川原平、過疎と合理化で移転を余儀なくされた山峡の高森、平沢などの集落の生活遺産とその記録を後世に伝えたいと考えるのです。



乳穂ヶ滝凍結報告絵図 文政3年(1820)



旧高森集落 (昭和44年)



高森の子どもたち

#### 佐藤仁先生ノプロフィール

新潟県出身。津軽地方の高校教員を経て、現在青森県文化財審議会委員。県内の中世城館、十三湊、近代化遺産、歴史の道等について調査活動を展開。著作に『青森県の歴史散歩』(山川出版社)、『中世・十三湊の世界』(新人物往來社)等。

※本稿は、平成16年12月19日に白神山地ビジターセンターで行われた講演「白神への道・白神からの流れ～目屋地域の歴史的考察～」の要旨です。赤い文字は写真と対応しています。

# 暗門溪谷のコケ植物

文 青森県立黒石高等学校 太田 正文  
写真 自然生態写真家 江川 正幸

コケ植物のおもしろさは、何といても形のおもしろさにあります。日本には約1700種のコケ植物が生育し、そのうち白神山地では200種近くが記録されていますが、それら一つひとつが全部ちがう姿形をしているので、見飽きることがありません。皆さんもぜひルーペを持って外に出てみましょう。都市や自然の中はもちろん、平地から山の頂上まで、地上のあらゆるところでコケ植物を見つけることができ、さまざまな造形と出会うことができます。今回は、昨年7月に暗門の滝で行われた観察会で見られた30余種の中から、代表的なものを選んで紹介します。写真は全て自然生態写真家の江川正幸さんが、当日現地で撮影したものです。



*Sphagnum girgensohnii*  
ホソバミズゴケ (セン類ミズゴケ科)

ミズゴケ類のからだは、葉緑体を持つ小さな細胞と葉緑体を持たない大きな透明細胞からできています。透明細胞には孔があって内部に大量の水をため込むことができます。山地の湿地に多くの種類が見られますが、この種はブナ帯の林下に見られます。



*Pogonatum contortum*  
コセイタカスギゴケ (セン類スギゴケ科)

木が生い茂った山道で、道端の地面に群生しているのをよく見かけます。スギゴケの仲間だからだスギの葉のような形をしていて、乾くと葉がすぼんだり縮んだりします。この種は乾くと葉が著しく縮れる特徴を持っています。



*Fissidens dubius*  
トサカホウオウゴケ (セン類ホウオウゴケ科)

この仲間は、葉が茎の両側にきれいに2列に並んでいて、その様子が鳥の鳳凰の羽根のようだと、その名がつけました。「トサカ」は、葉の上部の縁のギザギザした形から来ています。しめった岩や土の上に生えます。



*Leucobryum juniperoides*  
ホソバオキナゴケ (セン類シラガゴケ科)

この仲間はからだ全体が白っぽく、老人の白髪のようなので白髪ゴケまたは翁ゴケと呼ばれます。白いのは、中が空洞な透明細胞があるからです。木の根元や腐植土上に塊を作って生育します。西芳寺などの苔庭にもよく植えられています。



*Schistidium strictum*  
ホソバギボウシゴケ (セン類ギボウシゴケ科)

日当たりがよく乾いた岩や石垣などに生えます。胞子を作る蒴は葉に埋もれていますが、ルーペで見ると蒴の開口部にある16本の蒴歯がはじめは赤くて目立ちます。その蒴の様子が擬宝珠のようだと「細葉擬宝珠ゴケ」になりました。



*Plagiomnium vesicatum*  
オオバチョウチンゴケ (セン類チョウチンゴケ科)

大型のつやのある葉を持ち、沢筋の湿った岩上に生えます。チョウチンゴケの仲間では蒴(胞子ができる袋)が下を向いていて、提灯を下げたように見えることから付けられた名前です。本種は大型でつやがあり、群生する姿が美しい種です。



*Myuroclada maximoviczii*  
ネズミノオゴケ (セン類アオギヌゴケ科)

ルーペで見ると、円く湾曲した小さな葉が重なり合って、全体がネズミの尾のような形をしています。木の根元や土、岩の上に群生します。名前と姿が一致していて、一度覚えたら忘れることはないでしょう。



*Calyptogeia neesiana subsp. subalpina*  
タガネツキヌキゴケ (タイ類ツキヌキゴケ科)

腐葉土や倒木の上に生える茎葉体(茎と葉を持つ)のタイ類で、腹側には腹葉と呼ばれる小さな葉を持っています。本種は複葉が円くてやや大きく、細胞内の油体がブドウの房状になっています。茎の先端にある粉のかたまりは無性芽です。



*Scapania stephanii*  
チャボヒシヤクゴケ (タイ類ヒシヤクゴケ科)

この仲間は、花被(生殖器官を保護する覆い)の形がヒシヤクのようなのでその名前がつけました。チャボは小形であることを意味しています。葉が上下2片に折りたたまれ、上片の方が小さいのがこの仲間の特徴です。山地の湿った岩上に群生します。



*Pellia endiviifolia*

ホソバミズゼニゴケ (タイ類ミズゼニゴケ科)

ゼニゴケやジャゴケと同じく茎を持たず平べったい形(葉状体)のコケですが、表面にはうるこ模様がなく、半透明のからだを持っています。湿った地面や水辺に普通に生えていて、暗門の渓谷にも沢山見られました。

*Pallavicinia subciliata*

クモノスゴケ (タイ類クモノスゴケ科)

からだは幅5mmほどの葉状体で、つやがあり、地面をはって次々と伸びていきます。その様子が蜘蛛が巣を張るようだとして蜘蛛の巣ゴケと名前が付けられました。日陰の湿った岩や地面の上に生えます。

*Conocephalum conicum*

ジャゴケ (タイ類ジャゴケ科)

ヘビの鱗のような模様があるので蛇ゴケと名前が付きまして。山の湿った岩上や地面に生えるほか、民家の薄暗く湿った庭先にもよくはびこり、駆除に困ることがあります。

## みんなの広場

### 利用者の皆さんの声をアンケートからいくつか紹介します。

- ・初めて訪れました。すごくいやされます。(大阪府 女性 23歳)
- ・映像の大きさ、迫力、展示品の多さ等、今まで多くのビジターセンターを見てきましたが最高です。(兵庫県 男性 61歳)
- ・ぬりえや折り紙が面白いし、学校で体験できないことができるのでいいと思います。(西目屋村 女性 11歳)
- ・すばらしいひとときでした。施設に多くの人が来られるよう願っております。(京都府 男性 61歳)
- ・大きなブナの下に立ったとき、思わず森の中に入るような気持ちになり感動しました。(青森市 女性 52歳)
- ・ビジターセンターがとても立派でびっくりしました。まるで白神山地の中に入るような感動を受けました。天気が悪いので山まで行けませんでした。すごくためになりました。(埼玉県 女性 25歳)
- ・バードウォッチングで鳥さがしをして、鳥がとおいにいたのでびっくりしました。(弘前市 女性 8歳)
- ・今から白神山地へ入ってきます。長年の夢でした。C. W. ニコル氏の入山の心得を守ります。(女性 22歳)
- ・展示がとても面白かった。たくさんの工夫があり参考になりました。鳥が近くでみれるといいですね。(北海道 女性 31歳)
- ・鳥が上すぎて見えない。暗いからよくわからない。(東京 女性 35歳)  
(アドバイス) 鳥の模型が高い場所にあるのは、備え付けの双眼鏡でバードウォッチングを楽しんでもらうためです。野外と同じく下から見上げるアングルで見てもらうために高い位置になっています。
- ・ちょっと暗くてだめです。もう少し明るくしてください。(弘前市 男性 56歳)  
(アドバイス) 展示ホールには、夏のブナの森の1日を20分で体験する光と音の演出があります。夜や雨の場面になると暗くなるので解説が読みにくくなりますが、ちょっと待っていればまた明るくなります。
- ・四季のコーナーの中に入るとめまいがしました。なぜ、斜めに作られているのですか。(なし)  
(アドバイス) 展示ホールのデザイン上、変化をつけるために斜めに設計されました。山の斜面にいる感じがするという人もいます。

センター主催の各種行事(自然観察会、クラフト教室等)を開催しています。参加費は無料ですが、教材等実費をいただく場合があります。

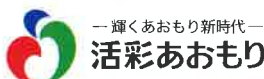
## 白神山地ビジターセンター

【開館時間】9:00~16:30 (大型映像 10:00 11:20 13:00 14:10 15:20 上映時間30分)  
【休館日】毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel: 0172-85-2810 Fax: 0172-85-2833

ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/sirakami/visitor/visitor.htm>



※42名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。(要申込み)  
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。